

しえいくばんず

2014.1.31

No.39

調布市生活文化スポーツ部男女共同参画推進課

〒182-0022 調布市国領町2-5-15 TEL: 042-443-1213 FAX: 042-443-1212

俳優業と農業と八百屋の好循環

「キーワードは「お互いを知ること」」

数々の映画やドラマに出演している永島敏行さんは、俳優業の傍ら自ら米作りを行い、生産者と消費者の交流を目的に、各地で青空市場808を開催しています。調布市民であり、仙川でも青空市場808(八百屋)で野菜を販売している永島さんに、仕事と農業を両立するメリットなどについてお話を伺いました。



Q.. 農業を始めたきっかけは？

永島.. 僕は、昭和31年千葉生まれです。

子どものころは、東京湾の遠浅の海であさりや蛤を獲り、田畑の広がる里山で遊ぶのが仕事でした。子どもが生まれて、妻と僕は、育った環境と自分たちの親を教師や反面教師にして、子育てしたいと思いました。ところが、都会の遊具が整った公園には、かくれんぼができる藪や木登りできる木はなく、僕らが育ったころの環境がありませんでした。せめて年に何回か思いっきり泥にまみれて遊ばせてあげたい、植えた草が、秋にお米になるという体験を遊びの中でしてほしいと思ったのがきっかけの1つですね。

Q.. 米作りは趣味？ それとも仕事？

永島.. 米作りで食べていないから仕事じゃないですね。そういう意味では趣味になるでしょうけれど、趣味というより自給自足。少量でも自分が食べる分を自分で作るということです。動物には自分で食料を獲る本能があるように、人間にも自分で食料を得るDNAが組み込まれていると思うんです。だから米を作っていると心が落ち着くんです。仲間と一緒にの米作りは、生活の一部になっています。

Q.. 俳優業と農業をバランスよく両立されているメリットは？

永島.. 役者にとつて、何であつても「知ること」は無駄にはなりません。僕は、全ての仕事は、ひとりで完結するものではなく、相手があつてはじめて成り立つサービス業だと思つていきます。仕事以外に農業をやることで、自分と違う価値観を知り、相手の立場を思いやれるわけです。違う生き方や考え方を知ることが大事なことだと思つています。

■映画「日本橋」(玉三郎が手掛け、待望の映画化) 2014年3月21日全国公開。

■地人会新社公演「休暇Holidays」2014年5月10日〜6月1日赤坂RED/THEATER

芸能活動を続けるかたわら、秋田県十文字町と千葉県成田市で20年間米作りを続ける。デイスカパー農山漁村の宝選定委員、本場の本物審査専門委員会委員など歴任。「青空市場」代表取締役。

仙川の青空市場808（八百屋）

わかつたのでしよう。

デフレ経済であっても適正価格というのはあると思うんです。少しでも安いものを選びたい気持ちはわかるけれど、それでも譲れない値段はあると思うんです。安く売るためには安い作り方をしなければいけないわけですから、そういう野菜で本当にいいのと思いません。

今後、国内の生産者と消費者がお互いを知ることがすごく大事になっていくと思います。相手を知って適正価格で買うからこそ、自分の生活も相手の生活も守っていきけると思うんです。安い値段にひかれて流されていくと、結局、

自分で自分の首を絞めることになると思います。僕は、俳優という仕事を与えられているので、届きにくい声を伝えていくのも使命だと思っています。

試してみ

メディアに多数出演の
藻谷さんの生の話を
聞いてみよう!

知っ得！ 今からの経営戦略知らないと危うい

平成26年2月14日（金）

午後1時～3時

場所：調布市文化会館たづくり
8階映像シアター

費用：無料

申込：男女共同参画推進センター

電話 042-443-1213

講師：藻谷 浩介氏

（株式会社日本総合研究所調査部主席研究員）

【講師プロフィール】

地域振興の各分野で精力的に研究、著作、講演を行う。

著書に『デフレの正体』（角川書店 2010年）『里山資本主義』（角川Oneテーマ21 2013年）等多数。